

中川勝雄教授定年退職記念最終講義にあたって

産業社会学部長 佐藤 春吉

中川先生の最終講義に際して、お祝と感謝を込めながら、学部を代表として、一言ご挨拶申し上げます。まずは、受講生の皆さんに一言説明いたします。大学の「最終講義」とは、今年度退職される先生の最後の講義において、先生の研究のまとめをしていただくとともに、教師そして研究者として学生の皆さんへの最後のメッセージを贈っていただくことが慣例となっているものです。本日はそのような特別の日です。というわけで、先生が産業社会学部で長年にわたって教鞭をとり、育ててこられた教え子の方々もこの教室にお見えになっています。

さて、中川勝雄先生、本当に長い間、ご苦労さまでした。先生には、私たちの大先輩としていろいろな局面でいつもよきリーダー役を務めていただきました。先生は産業社会学部で34年間の長きにわたって教育・研究に携わってこられました。学部や大学運営の面でも重責を担われ重い役職を次々とお務めになられ、大きな力を発揮されました。大学、学部とも中川先生のお力に負うところが大変大きいと思っております。私は個人的にも先生からのご指導、ご鞭撻をいただいて、先生の責任感の強さ、誠実なお仕事ぶりに感化されて、今日まで仕事をどうにか続けてこられたという思いがあります。その意味で、大変大きな恩を受けたと思っております。まことにありがとうございます。これまでのご功績を称えらるとともに、個人としても学部としても深く感謝申し上げる次第です。

それでは、簡単に先生が歩んでこられた道りをご紹介させていただきます。

先生は1944年、終戦1年前の8月にお生まれです。広島でお生まれになっておられますので、そのことについてお聞きしたことはありませんが、当時体験されたことの中には、多くの悲しく悲惨なシーンなどもあるのではないかと推察いたします。1967年、北海道大学文学部を卒業され、大学院に進まれ、社会学、とりわけ地域社会学の研究に従事し、卒業後に大学院の修士課程を出られて北海道庁の研究所にお勤めになりました。その後、76年に本学の産業社会学部に勤務され、以来34年間産業社会学部にお勤めになりました。その間、学部の学生主事、学部主事、調査委員長、そして学部長を歴任されました。その後は、大学では学生部長を努められるとともに、学園の重要役職である学生担当常務理事もお勤めになりました。社会的な活動でもたくさんのお仕事をされ貢献されてこられました。日本社会学会理事をお努めになった他、大学のバレーボール部の部長、その関係で京都バレーボール連盟会長などもなさっています。また、NPO法人「ひこばえ」の理事長を努めるなど社会福祉法人を支援する活動でも尽力しておられます。

研究業績としては、北海道大学で社会学、地域社会学、自治体問題、住民運動などの研究を始められ、以後一貫してそれらの問題の研究に従事する長い研究人生を送ってこられました。先生の主要な研究テーマは地域社会学ですが、中でも住民自治論、地域における住民の諸組織の形成と変

容、それらの研究をもとにした住民運動の動態の研究などです。特に、さまざまな実態調査を積み重ねながら行う地域における住民主体の自治能力の形成にかかわる研究に力を注いでこられました。その研究の性格ですが、客観的にいえば住民の諸組織の研究といえると思います。自治体の中にさまざまな組織があるわけですが、それらの組織の形成の過程、活動内容、それらが果たす地域の住民生活に関する役割、自治体の政治構造、自治体の政治を動かすさまざまな力関係をとらえていくということになると思います。さらに言えば、地域の住民の主體的な能力形成という問題を、さまざまな組織と関係しながら活動する地域社会の中での住民自治組織、住民組織の動向からとらえていくということです。そのなかに、企業組織や家族という組織単位もあるわけですが。そういう諸組織の動態からとらえていく研究になるかと思います。

中川先生の研究のなかに一貫して見られるの一言でいえば、「自治の精神」だと思います。つまり、住民自身が政治的主体者としてその生活を自らつくりあげ、地域の関係をつくりあげながら主体形成していく可能性、そこに焦点をあて、その中で自治体が産業構造の変化や消費構造の変化の中で変容していく歴史過程についても目を凝らしながら、住民の自治能力の発展の可能性や困難がどのように招来してくるかということ、実証的に、具体的な地域のさまざまな指標、データを駆使し、自ら行う実施調査などを通じて探求していく研究だと言えらると思います。その中で先生は、継続的に豊田市の調査研究を行ってこられました。そこでは、住民組織の動向、住民生活のあり方について、企業城下町といわれる豊田市で、トヨタの企業のもとで編成されている住民組織や自治体の動向を経年的、継続的に研究されています。豊田市はもともと挙母市といったんですね。古い歴史ある町から変容していくことから生ずる新住民と政治への関与の問題などについて、トヨタがグローバル企業になっていく変化を追いながら詳しい研究が展開されています。

先生は、沖縄調査に関しても継続的な研究をされています。沖縄はさまざまな家族や親族関係の中で濃厚なつながりを持つ地域ですが、その変容、継続性をつぶさに研究していくというお仕事です。地道な研究活動の中からいきいきとした組織、住民たちの動向を浮かび上がらせていく、住民たちの自治能力の形成の過程を解明しながら、「全面発達」と先生がおっしゃるような、住民が本来持つ要求の実現可能性を追求していくというご研究です。そういう点で先生は、一貫して、日本の民主主義の発展、自治能力の形成に焦点をあわせながら日本の地域動向を研究されてきたということになるかと思います。学部や大学の要職を歴任されながら地道な研究を継続してこられた先生に、改めて学部としても個人的にも敬意を表する次第です。先生、ほんとうにごくろうさまでした。今後もしばしばご研究を継続されさらに発展されますことを期待しております。

先生は、学生の教育にも粘り強い努力を続けてこられ、社会の各分野で活躍する社会人を育てるとともに、研究者をも育ててこられました。先生のこれらのご業績に改めて敬意を表させていただきます。先生が、いつまでもお元気を保たれ、今後の人生を充実したものとされ、いっそうのご活躍をされますことをお祈りいたします。

今後とも、私たちにも引き続きご教示ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます、私のご挨拶とさせていただきます。

2010年1月13日